



特集

病院と訪問看護

「退院直後」を連携で支える

地域包括ケアシステムの推進により、「時々入院ほぼ在宅」が現実のものとして視野に入りつつある。治療を目的とした病院看護と、在宅生活の支援を目的とした訪問看護との間をつなぐのも、看護の力である。実際に、同行訪問や退院後訪問などさまざまな形で訪問看護と協働している病院が増えている一方で、「訪問看護との連携が進まない」「退院直後の再入院が減らない」と悩む看護管理者の声も聞く。

本特集では、特に医療依存度の高い患者の在宅移行期支援に焦点を当て、訪問看護との連携の重要性や活用できる制度を解説するとともに、地域あるいは併設の訪問看護ステーションと病院との連携で在宅移行を実現させている取り組みを紹介する。

